



ラスタース彩は、9世紀頃にオリエント周辺を治めていた、イスラーム教を信仰するアッバース朝で生み出された技法です。
ラスタース彩について学んでいく中で、ラスタース彩の見る角度によって表情が移り変わっていく様子にインスピレーションを受け、本作品の制作に至りました。目指したところは、形が自由に変化していく予感を抱かせるような表現です。ラスタース彩を作品の縁のみに塗ることで、光線が走り、流れる曲線をより強調させる効果を狙っています。

立体
陶土 H110cm×W150cm×D15cm 1点
筑波大学芸術専門学群 2023年度卒業制作

このコーナーでは、筑波大学芸術系ならびに同大学の芸術専門学群を卒業された方々のご協力のもと、芸術作品を掲載しています。